



日野中だより 3号

発行：令和2年6月22日(月)

文責：佐世保市立日野中学校

校長 池田 美祐紀

校訓



学校教育目標

心豊かで活力に満ちた生徒の育成

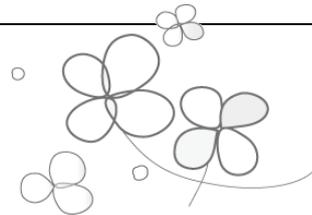
学びあい

認めあい

支えあい

いのちを見つめる日 ー校長講話よりー

今年、6月1日の「いのちを見つめる日」の校長講話は、放送で行いました。コロナウイルス感染拡大防止のため、学校が長い間臨時休業となったこともあり、今年は、特に、いのちについて考えられた方が多かったのではないのでしょうか。私もその一人です。是非、ご家庭でも話題にさせていただき、今一度、いのちについて語り合っていただければと思います。



おはようございます。今日、6月1日は「いのちを見つめる日」です。

初めに、この「いのちを見つめる日」の背景をお話します。みなさんが生まれる少し前のことです。長崎県内で、中学生が幼い子どもを、小学生が同級生を傷つけてしまうという事件が続けて起こりました。亡くなった子どもたちのご両親や家族の人はもちろん、友達、先生方、周りの多くの人がそれは、それは、大変悲しい思いをしました。そして、その悲しみ、苦しみは、16年経った今でも続いています。尊い命が奪われ、こんなにたくさんの方が悲しみ、苦しむ事件を二度と起こしてはいけません。大切ないのちをみんなで守り抜かなければならないという、みんなの強い気持ちから、「いのちを見つめる日」をつくり、いのちについてしっかりと考えようということになったのです。今日が、その大切な日なのです。



みなさん、静かに目を閉じてください。そして、自分の身体に触れてみてください。手でも頬でも首でもいいですよ・・・触れましたか？

はい、ありがとう。どんな感じがしたでしょう。今、みなさんが感じてくれたことは、生きている証、いのちが輝いている証拠です。生きているって、温かい・・・やわらかいね。でも、いのちがなくなると・・・今まで温かかった手は？ やわらかかった頬は？ 元気に鼓動を打っていた心臓は・・・どうなるでしょう。

みなさんもよく知っているように、最近、日本や世界でコロナウイルスの感染症でたくさんの方が亡くなっています。私たちがよく知っている有名人も亡くなられ、ショックを受けましたよね。「つい、この前まで元気だったのに・・・」と何とも切ない気持ちになりました。また、SNSでの誹謗中傷やいじめによって、自分でいのちを断つ中高生や若い人たちもいます。

いのちは、重い病気でも、奇跡を起こして復活するほど強い反面、人間の心ないひと言や無視などのような言動で一瞬にしてなくなってしまふ儚いものでもあります。だから、みなさんには、自分の一つしかない大切ないのちを大切にすると同時に、他の人のいのちも大切にしたいと切に願います。



みなさんは、お母さんが大切に10か月お腹の中で守り、ものすごい痛みに耐えて産んでくれました。みなさんも頑張って、頑張って、いのちをかけて生まれてきました。

生きているものは、人も動物も植物も、全てのものがいつかこの世界にさよならをしなければいけない時がくるけど、その時まで一生懸命生きないといけないと思います。

生きていると、いろいろあるね。楽しいことばかりじゃないね。勉強のこと、友達のこと、部活動のこと、家族のこと、受験のこと・・・悩んで、悩んで、どうしようもなく、泣きたい日もありますね。正直に言うと、大人の私でもいろいろ考えて、眠れない日もあります。

でも、私たちは一人じゃないよ。家族の人、友達、先生方、みなさんの周りには、応援してくれている人がいます。自分では気付いていないかもしれないけど、必ず気に掛けてくれている人がいます。誰かと繋がっていますよ。

私たちは、誰もが初めての人生を生きています。だから、どうしようもない悩みに出遭うと、心が折れそうになることがあります。そんな時は、私たちを頼ってください。みなさんより早く生まれた分、みなさんより少し多く悩みを経験し、乗り越えてきています。だから、悩みを解決できるアドバイスができるかもしれません。一緒に考えますので、いつでも声を掛けてくださいね。

みなさんが「あなた自身」としてこの世に生まれてくる確率は「1400兆分の1」だそうです。ちょっと想像できない数字ですが、これは、1億円の宝くじが100万回連続で当たる確率と同じだそうです。

「1400兆分1」という奇跡的な確率でいただいた大切ないのち、みなさんはどのように使って生きていきますか？



真剣に放送での講話を聴いてくれた子どもたち・・・ あいありがとう！

